

## 豪雨防災情報に対するインターネット利用者の認識 —2004～2013年の4調査の比較から—

○静岡大学防災総合センター 牛山素行  
静岡大学防災総合センター 横幕早季

### 1. はじめに

筆者らは以前から、豪雨災害の被災者や、市町村防災担当者を対象にリアルタイム雨量・水位情報等の認知、利用実態、利用意向についての調査を行っており、これらの情報があまり認知されておらず、認知されても必ずしも積極的に利用されないことを示唆してきた。前回この観点からの調査を行ったのが2010年であり、既に3年あまり経過した。近年、新たな防災気象情報の整備や、警報体系の変更の検討が行われつつあり、近年のリアルタイム雨量・水位情報や、各種災害情報に対する認知状況、利用意向について調査した。

### 2. 調査手法

調査は、インターネットを通じた社会調査サービスであるgooリサーチを利用した。同サービスに登録しているモニターに対して調査依頼のメールを配信し、これに応じた回答者から先着順に一定数までの回答を受け付ける方式で行われる。対象者は、2010年の調査と同様に、盛岡市(近年大きな豪雨災害がない)、静岡市(地震災害が強く警告されているが近年大きな豪雨災害はない)、名古屋市(2000年・2008年に市内で数千～数万棟の浸水被害が発生)の在住者とした。回答依頼メールは2013年3月1日に配信、3月5日締切で、有効回答数は547件(盛岡173, 静岡186, 名古屋188)だった。なお、筆者らはこれまでにほぼ同様な方法で、2004, 2007, 2010年の3回の調査を行っている。

### 3. 調査結果

1) **リアルタイム雨量・水位情報サイトの認知**：リアルタイム雨量・水位情報サイトとして、Yahoo!天気情報、防災情報提供センター、川の防災情報、気象庁ホームページを挙げ、それぞれのリンク先を参照してもらった上で、「あなたは以下のホームページを見たことがありますか」と尋ねた。Yahoo天気情報については「よく見ている」、「見たことはある」がほとんど(84.1%)を占めるが、防災情報提供センターは「今回のアンケートで初めてその存在を知った」が64.2%、川の防災情報は同76.4%と、認知していない回答者が多数を占める。これらの傾向は、2004年調査、2007年調査、2010年調査とほとんど変化していない。

2) **リアルタイム雨量・水位情報サイトの利用意向**：「あなたは、大雨による災害が起こりそうな時に、パソコンや携帯電話から、これらの情報を実際に見て参考にしたいと思いますか」と尋ねた。雨量、水位のそれぞれについてパソコンからの参照、携帯電話からの参照意向を整理した。「確実に見ると思う」(図中では「見る」という積極的な利用意向はいずれも1割程度で、「見る可能性はあると思う」(同「可能性はある」との合計を利用意向有りとなしでも、雨量をパソコンからの場合が51.6%となるのみで、他は過半数に満たない。この傾向は、各年の調査とほとんど変わらない。リアルタイム雨量・水位情報が公開されていることを知らせても、利用者はその情報に対して積極的な利用意向を示さないことがあらためて確認された。

3) **気象警報に対する認知**：「気象庁から、大雨警報、暴風警報など、気象に関する警報が発表されることがあります。この「警報」とはどのような意味を持つ情報だと思いますか」と尋ねた。警報とは、「重大な災害の起るおそれのある旨を警告して行う予報」(気象業務法第二条7項)なので、この質問のいわば「正解」は「重大な災害が起るおそれのあることを警告する情報」である。注意報に当たる「災害が起るおそれがあることを注意する情報」と、「災害が起るほどではないが念のため注意することを呼びかける情報」の合計が49.9%である。つまり、全体の半数弱は警報について本来持つ意味よりも弱く認識していることになる。また、「気象に関する警報は、どの程度の地域的な広がり単位として発表されていると思いますか」と尋ねた。「市町村単位くらい」がもっとも現状に近い選択肢であるが、これを選択した回答者は38.4%にとどまる。一方、市町村

警報導入前の状況に近い「県単位くらい」、  
「県内を複数の地域に区分するくらい」  
の合計が42.2%に達している。同様な設問  
は2010年調査においても尋ねているが、  
結果はほぼ同傾向であった。

**4) 土砂災害警戒情報に対する認知：**2013  
年調査からあらたに「気象庁から、市町  
村程度の地域的な広がり単位として、  
「土砂災害警戒情報」という情報が発表  
されることがあります。「土砂災害警戒情  
報」という情報を見たり、聞いたりした  
ことがありますか。」という設問を行った。  
「ある」という回答がほぼ51.9%となっ  
ている。情報の意味を尋ねる設問として  
「土砂災害警戒情報」とはどのような時  
に発表される情報だと思いますか」を挙  
げた。「正解」に近い「土砂災害が発生す  
る危険度が高まった時」を選択したのは  
40.8%にとどまる。「すぐに土砂災害が発  
生するほどではないが、念のため注意し  
た方がよい時」と「土砂災害が発生する  
可能性が生じた時」という、本来の情報  
より弱い意味に解釈する回答の方がむし  
ろ多くなっている(52.3%)。

**4. おわりに**

充実した防災情報が整備されても、認  
知は進まず、利用意向も高まらないこと  
があらためて確認された。また、警報な  
どの伝統的な情報であっても、その意味  
は十分理解されていないことも確認され  
た。国民全般に防災情報を認知、理解し  
てもらうことは極めて困難である。だか  
らといって、新たな情報を整備するこ  
とをためらうのも適切ではない。これらの  
情報を確実に利活用してほしい人に対し、  
重点的に活用方法を伝えたり、準備計画  
することが重要だろう。当日は他の設問  
の結果も紹介する。

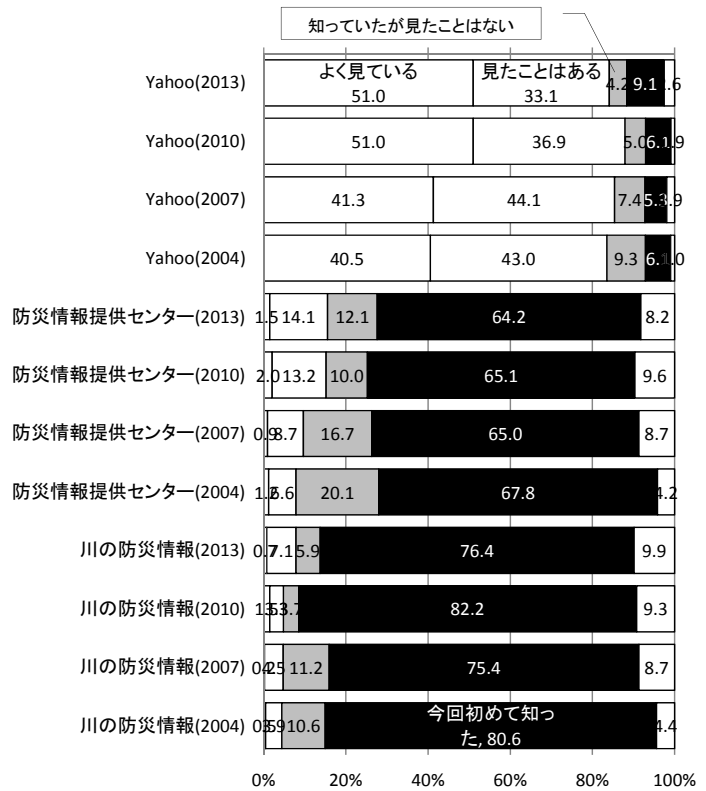


図1 リアルタイム雨量・水位情報サイトの認知

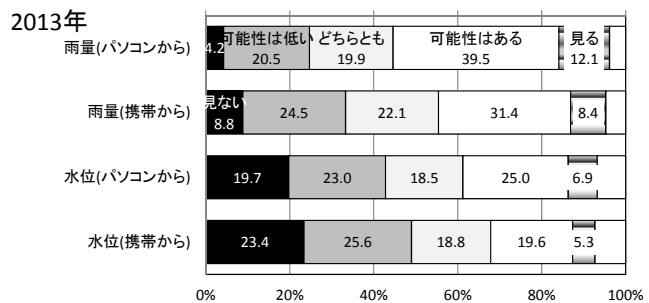


図2 リアルタイム雨量・水位情報の利用意向

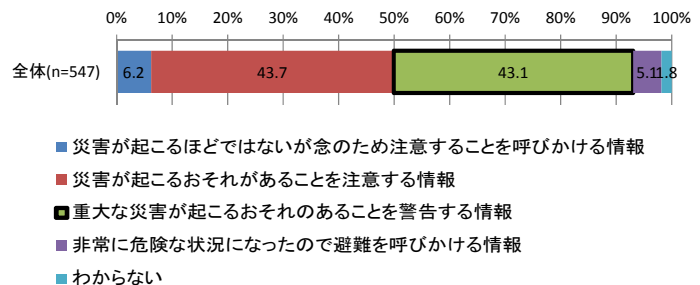


図3 気象警報の意味に対する認知

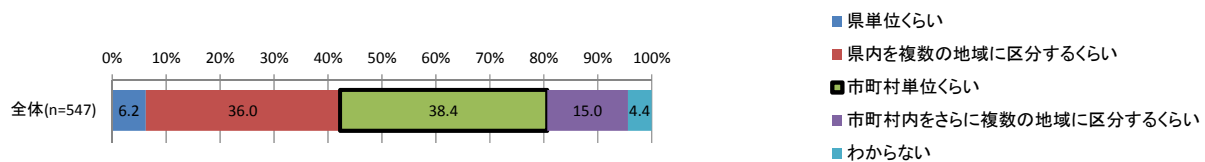


図 4 警報の地域区分に対する認知